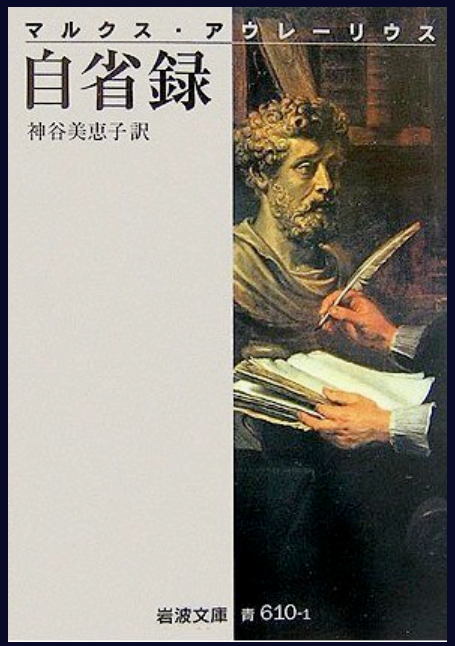
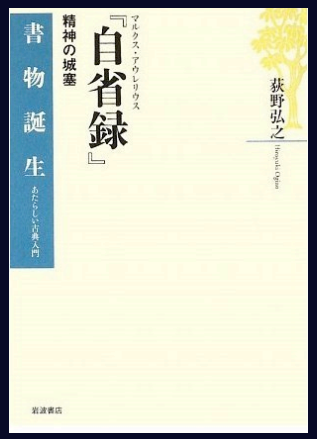




『自省録』
マルクス・アウレーリウス　著
神谷美恵子　訳
2011.01.10 Campbell

岩波＆名著読書会 in 東京

それはまるで、

「こころの二層式洗濯機」の様（私見）

目　次

- マルクス・アウレーリウスについて
- 『自省録』について
- ストア派哲学について
- 『自省録』のスタイルとその思想について
- 参考文献

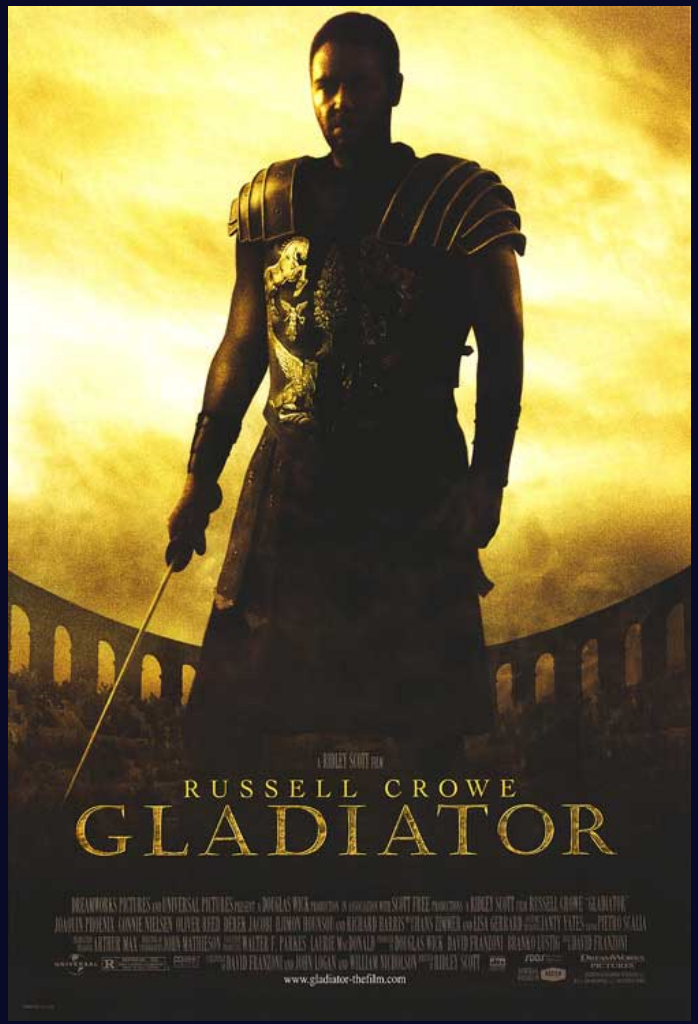
ご質問、コメントはいつでもどうぞ

マルクス・アウレーリウス・アントニヌス

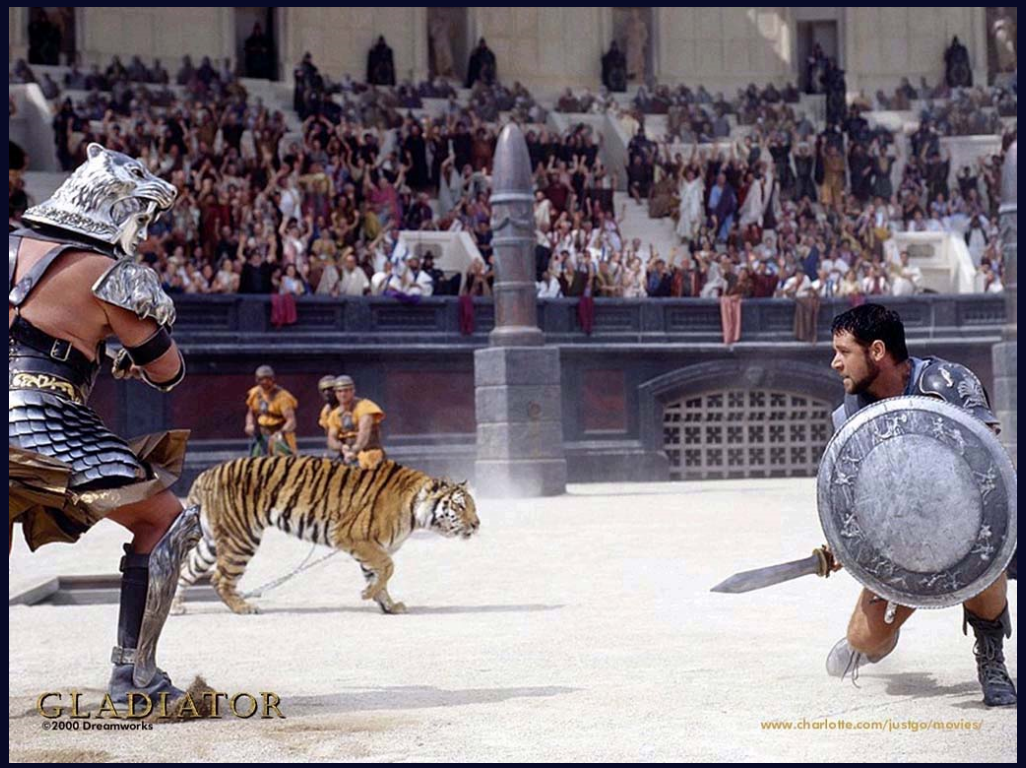
Marcus Aurelius Antoninus
121年4月26日 - 180年3月17日

- 第16代ローマ皇帝
- 五賢帝最後の一人
- ストア派哲学に精通
- 晩年の体験を記したものが本書
- 後世には「哲人皇帝」と称された

http://ja.wikipedia.org/wiki/マルクス・アウレリウス・アントニヌス　一部変更



時代背景は
『グラディエーター』のイメージ



『自省録』

- マルクス・アウレリウスの著した思想・哲学書
- 著者はローマ人であるが、全編ギリシア語
- 五賢帝の最後の一人である著者は、後期ストア派を代表する人物でもあり、本書は彼の思想を直接知ることのできる唯一の資料といえる。

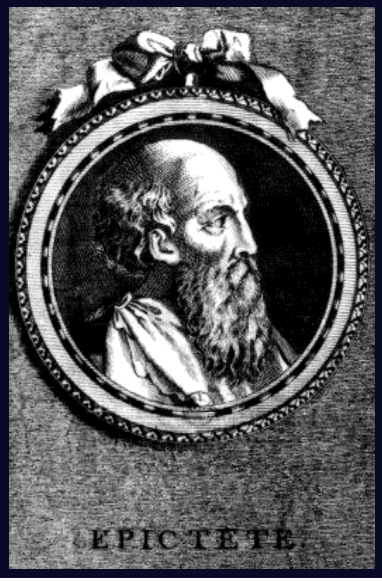
http://ja.wikipedia.org/wiki/自省録　一部変更

ストア派　Stoicism

- ヘレニズム時代に成立した哲学ないしその学派
- 開祖はゼノン
- この派にちなむ**ストイック** (stoic) という言葉が示すように、禁欲的な思想と態度によって知られる。
- 古代ギリシア・ローマの時代においてはアカデメイア学派、逍遥学派、エピクロス派と並んで**四大学派**とされていた。

http://ja.wikipedia.org/wiki/ストア派　一部変更

➡ 著者は、**エピクテトスの思想**を師父ルスティクスを通じて学んだ。



権内と権外

「権内」

- コントロール可能

ex)　判断、意欲、欲望、忌避

・徹底的にコントロールすべし
・「内なる精神の城塞」
・合理的であれ
・冷静であれ
・欲望は捨てよ
・自殺容認論

「権外」

- コントロール不可能

ex)　身体、財産、評判、官職

・とらわれるべからず
・欲すべからず
・身体障害は障害ではない
・善人にも悪人にも起こる事は善でも悪でもない。

『自省録』のスタイルとその思想

どの様に読めばよいのか？

『自省録』のスタイルとその思想

どの様に読めばよいのか？

変奏曲を聴く様に読むべし。

『自省録』のスタイルとその思想

- 「日記」「覚書」「アフォリズム」と多面的
- 反復や重複
- 規則の変奏
- ストア派哲学を様々に展開した集積

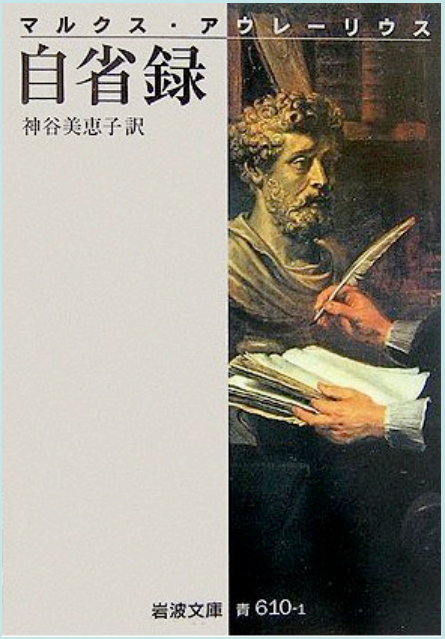
＜ストア派哲学　3×（3＋1）＞

活動	①正しい判断	②欲求を捨てる	③正しい行為
実在の領域	判断能力 （理性）	自然の秩序 （大宇宙）	人間本性 （小宇宙）
規則	客観性	運命への同意	正義と利他性

『自省録』のスタイルとその思想

変奏曲を聴く様に読むべし。（受売り）

それはまるで、



「こころの二層式洗濯機」(私見)

二槽式洗濯機

- 「洗い」「すすぎ」槽と、「脱水」槽が分離
- 機能は単純だが、

  1）分け洗いが簡単→大量洗濯の際は時間短縮

  2）汚れ落ちが途中で確認出来る

＜自省録との共通点＞

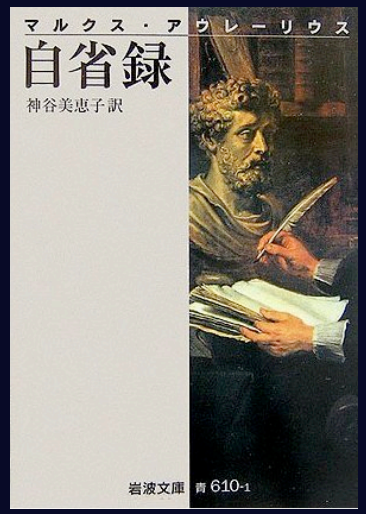
- 手間がかかる

しかし、

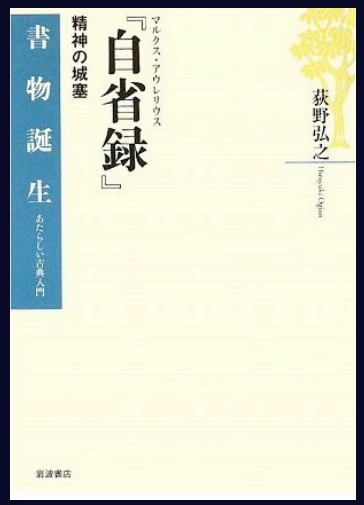
- 使用後はきれいさっぱり気持ちいい仕上がり
- 人それぞれに合わせた使い方が出来る
- 最新作が発売された今でも根強い人気

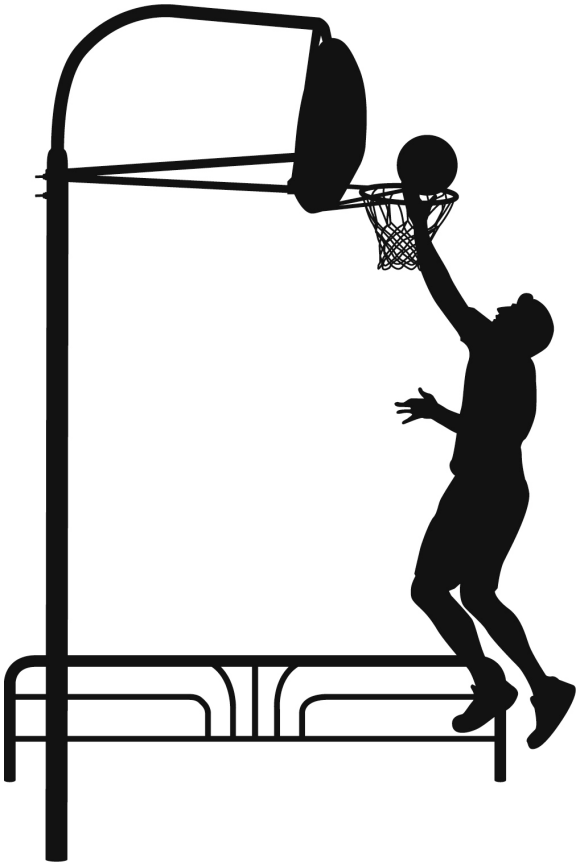
参考文献

- マルクス・アウレーリウス　著
  神谷美恵子　訳
  『自省録』
  岩波書店　2010年　第8刷



- 荻野弘之
  『自省録』 精神の城塞
  岩波書店　2009年　第1刷





終

～いよいよ本編です～